

動物実験に関する現況調査票

滋賀医科大学

平成 27 年 10 月

## I. 動物実験に関する組織

機関長	職名 学長	氏名 塩田 浩平
事務担当者	職名 研究協力課研究協力係・専門職員	氏名 廣田 智子
同 連絡先	TEL 077-548-2013	FAX 077-543-2086
		e-mail; hqkenkyu@belle.shiga-med.ac.jp
動物実験 委員会委員長	職名 副学長	氏名 堀池 喜八郎
同 委員	職名 教授	氏名 小笠原 一誠
同 委員	職名 教授	氏名 依馬 正次
同 委員	職名 教授	氏名 等 誠司
同 委員	職名 教授	氏名 宇田川 潤
同 委員	職名 教授	氏名 野崎 和彦
同 委員	職名 教授	氏名 安藤 朗
同 委員	職名 教授	氏名 森川 茂廣
同 委員	職名 教授	氏名 室寺 義仁
同 委員	職名 准教授	氏名 中村 紳一郎

委員の数に応じて、表の行を増やしてください。

## II. 機関における動物実験の概要

### 1. 動物実験を行う主たる研究分野

- 医歯薬学分野
  畜産・獣医学分野  
 生物科学分野
  理工学分野  
 その他 ( )

### 2. 年度ごとに使用した実験動物の種類と概数

動物種	概 数				
	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 年度	2 5 年度
マウス	12,685	11,018	10,616	12,590	12,702
ラット	1,373	1,469	1,295	1,438	1,344
スナネズミ	0	0	0	20	12
モルモット	62	90	76	79	108
ハムスター	0	0	0	0	0
ウサギ	200	405	159	205	96
イヌ	13	68	33	13	10
カニクイザル	108	60	92	105	113
ニホンザル	10	3	1	0	1
アカゲザル	0	0	0	0	0
ブタ	6	10	5	12	9

カエル	0	0	0	0	0
-----	---	---	---	---	---

### 3. 年度ごとの承認された動物実験計画数

動物実験計画数	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	104件	104件	109件	130件	126件

### 4. 年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	150人	150人	138人	161人	226人

### 5. 実験動物飼養保管施設の現況

施設の名称	管理者の職・氏名	実験動物管理者の職・氏名（関連資格・経験年数）	動物種	最大飼養頭数（概数）
動物生命科学センター（旧棟）	センター長・小笠原一誠 教授・依馬正次	・准教授・中村紳一朗（獣医師・獣医病理学専門家・21年） ・技術専門職員・土屋英明（実験動物技術指導員・26年）	マウス	13,000
			ラット	1,932
			スナネズミ	144
			モルモット	48
			ウサギ	96
			イヌ	58
			ブタ	10
			ニホンザル	17
			アカゲザル	17
			カニクイザル	132
動物生命科学センター（新棟）	センター長・小笠原一誠 教授・依馬正次	・准教授・中村紳一朗（獣医師・獣医病理学専門家・21年） ・技術専門職員・土屋英明（実験動物技術指導員・26年）	カニクイザル	740

### 6. 特記事項

（動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情）

<ul style="list-style-type: none"> <li>動物実験委員会は、サル以外のすべての実験動物を対象とした「基礎」、サルを対象とした「サル」、及び感染動物実験を対象とした「感染」の3種の教育訓練を実施し、講義と資格認定試験、さらに「サル」ではウェットハンドが行われている。</li> <li>動物実験委員会は動物実験の3Rsに基づき、計画書に対する厳正な審査を行っている。</li> <li>動物生命科学センターには、医科学教育、基礎・応用研究のために必要とされる主な動物種を飼育・維持・管理できる体制が整っている。</li> <li>学内外の利用者によるサル類を用いた研究が盛んで、そのための支援体制が整えられている。サル類の計画的な人工繁殖がルーチンに行われているのも特徴である。</li> </ul>
---

- ・農林水産省からサル類の輸入法定検疫施設の許可を、我が国の大学では唯一、取得している。
- ・げっ歯類、サル類ともに、近年増加している組換えベクター実験などに対応すべく P2 レベル感染実験動物施設に加え、新興再興感染症実験（高病原性鳥インフルエンザ感染実験）に対応すべく P3 レベルの感染実験が行える飼育室（ABSL2 及び ABSL3）を保有している。
- ・トリインフルエンザウイルスの保管施設と実験感染、ブタ飼育施設は家畜伝染病予防法に従っている。
- ・使用済みケージに挟まれる形で生きた組換えマウスが発見されたため、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会で協議し、経緯、原因、今後の対策を文部科学省へ報告した。この事例に対し、組換え動物の飼育、管理、実験室利用について再確認のための全学レベルの再教育を行った。動物生命科学研究センターでは、飼育室だけでなく、マウスを使用するすべてのエリアに封じ込め措置を講じた。
- ・飼養保管施設以外の実験室へ、本学動物実験委員会で承認されていない実験動物を外部機関から持ち込んで、実験が行われた。教育訓練で、外部機関からの動物導入事例の手続きについて具体的に説明するとともに、動物実験計画書の様式で導入元を詳細に記入できるように改めた。